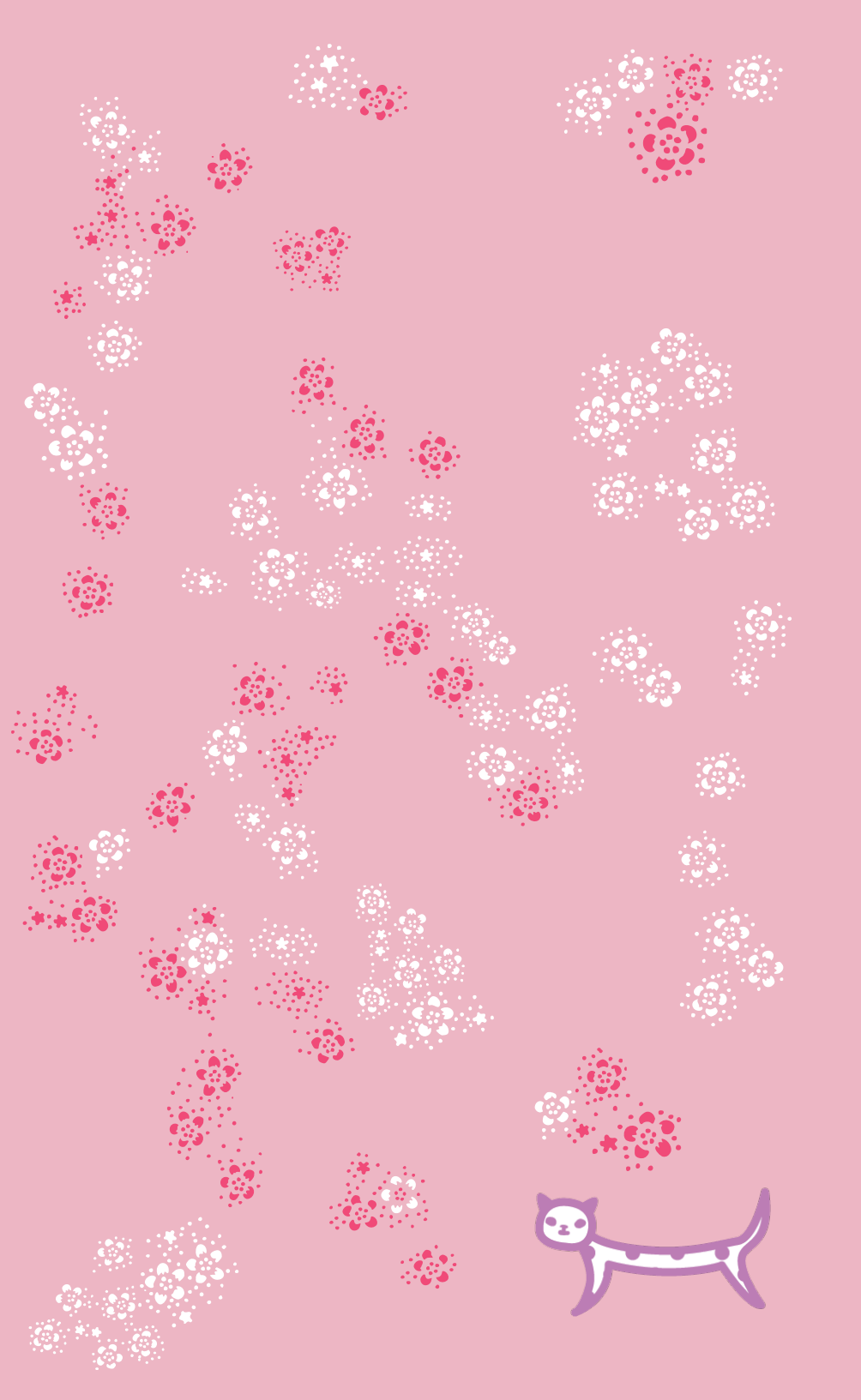




くまがや
熊谷
暮らし vol.2

熊谷暮らし

【制作】熊谷市総合政策部企画課 〒360-8601 埼玉県熊谷市宮町2丁目47番地1 E-mail: kikaku@city.kumagaya.lg.jp Tel: 048-524-1115 fax: 048-525-9222
【題字等デザイン】 nonpicka 【撮影協力】 ウスキングページル / くまっぺ広場第2 / 古郡ホーム株式会社 熊谷デザインオフィス / くまのこみち / ※ 本誌におけるイラスト等の権利は、熊谷市及びデザイナー等に属します。





白杵さんが「仕事と子育てを両立している」ということは、白杵さんは「家族で仕事や子育てに取り組んでいる」と言い換えられる。垂矢子さんは、ベーグルサンドの考案などの店での仕事に加え、保育園の迎えや家事もきっちりこなしてくれる。白杵さん自身は、翌日の仕事のこともあり、子どもとともに21時半頃には就寝するが、翌目を覚ますと、洗濯などの家事が全て終わっているため、「毎朝ありがたい気持ちになる」という。加えて、小学生の子どもが、店ではレジ打ちの手伝いを、家に帰れば下の子たちを絵本を読み聞かせながら寝かしつけてくれるなど、仕事に子育てに協力し、その姿を1歳の子どもが見習い、0歳の子どもの面倒を見ようとするような家族の姿がでている。

小学生の子どもの夢は、「自分でカフェを始めること」で、すでにメニューも考えているそうだ。白杵さんもそれを楽しみに思っているが、「店を継いで欲しい」という考えはなく、ただ、「一緒にやりたい」とか「私が継ぎたい」と思えるような、手本となる背中を見せ続けたいと考えている。



①子育てについて話す白杵健さん ②写真中、左の絵は店内のトータルディレクションを行ったクリエイティブディレクター BARZさんの作品 ③ショーケースにはベーグルサンドのほか、シナモンロールが並ぶ ④取材に応じた家族5人の様子

飛び出すこともあるそうだ。家族を支える一人として、仕事や子育てをする一方、白杵さん自身も店やまちの将来に対して思いを持っている。白杵さんは熊谷のまちについて、「熱意のある店が多い」と話す。出店してもうすぐ3年を迎える中、周辺の店舗とも繋がりができている。繋がりのある店の主人には、「どうしたら熊谷がもっと良いところになるのか」を本気で考えている地元が大好きな人が多く、それがまちの良さである。白杵さんは考えている。3年後には、ラグビーワールドカップ2019が開催され、熊谷市内にも人出が見込まれる。そこで、イベントだけではなく、熊谷のまちも見て、その良さを肌で感じてもらうため、まずは「にぎわいのある店をつくる」ことを目標に、家族で互いに支え合いながら今日も仕事に子育てに励む。

そのような白杵さんの、子育てに対する考えは、「ありのまま自由に育って欲しい」ということで、子どもが好奇心を持ったことについて、自由にやらせるようにしている。子どもらしく何でも遊びにしてみよう、ひどく叱ることもあるが、笑ったり、学んだりしながら成長し、変化していく子どもを、日々見守っている。

白杵さんの提供するベーグルはもっちりや噛みごたえがある。白杵さんは、「よく噛むことで健やかな成長をしてくれば」と、子どもたちにも食べさせる。店で販売しているサンドやスープについては、垂矢子さんが、「子どもがお腹を空かせた時にすぐにあげられるような安全で安心なものを作りたい」という考えのもと、熊谷産の野菜を取り入れ、開発に励んでいる。季節ごとにその時期の旬の食材を使用し、ほかにはあまりない、身体に優しい熊谷の四季を感じるベーグルを生み出している。

白杵さんが子どもを背負っている時に、店を訪れる人の中には、その姿について声をかけてしまう人もいる。子育ての話になった際には、お客さんから子育ての愚痴が

ひとの和の中で子育てを



子育て支援拠点「くまっぺ広場第2」の運営に携わる NPO 法人子育てネットくまがやの（右から）黒澤稔枝（くろさわとしえ）さん、小林和代（こばやしかずよ）さん、天田有紀（あまだゆき）さん



「くまっぺ広場第2」は、2014年7月に熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」内にオープンした。市内19か所ある子育て支援拠点のうちの一つで、楽しく遊べる明るく開放的な広場である。この場所で、多くの子どもたちとそのパパ・ママをいつも笑顔で迎えるスタッフ3人に、子育て支援拠点の役割や支援に対する思いなどを聞いた。

くまっぺ広場第2

住所：熊谷市原島 315 熊谷市スポーツ・文化村
「くまびあ」親子ふれあいルーム内
開催時間：10時から15時まで
休日：火・日・祝日・くまびあ休館日
問い合わせ：080-8892-5453（子育てネットくまがや）
※ 親子ふれあいルームはくまびあ休館日を除く
毎日8時30分から21時30分まで利用可



（※ 敬称は省略しています。）

「今日はとてもにぎわっていましたね。」

（小林） そうですね、今日は少ない方なんです。今日は、ほとんどが常連さんでした。

（天田） 普段は20組から30組くらい集まります。パパも一緒に来ることがありますので、全員で60人以上になることもあります。

「木曜日の人数が特に多いですね。」

（天田） 木曜日は、子育てネットくまがやが、イオン熊谷店で運営する子育て支援拠点の「0・1・2・3さいくまっぺ広場」がお休みで、そこを利用している方がこちらに遊びに来ます。また、幼稚園に通う兄弟（姉妹）がお休みのときは、一緒に来ることがありますので、それも重なりと100名以上になることもあります。

そんな日はとてもにぎやかになりますね。

「施設について教えてください。」

（天田） 妊婦さんと幼稚園に通っていない未就学のお子さんとその保護者が利用できます。下の子が対象の場合は、上の兄弟（姉妹）を連れて遊びに来ることもできます。お子さんが楽しく遊ぶ場ではありますが、ママたちが気兼ねなく来られる居場所の一つになればと思っています。

（小林） この広場は、ママ同士でも、一人でもすぐに新しい友人ができます。ママたちの交流を広げるきっかけの場所でもあると考えています。

（黒澤） 昔は親だけではなく、地域の色々な人がいる環境で子どもを育てるのが当たり前でしたが、今はそうではないので、ここはそれに代わる場所だと思います。また「くまびあ」は、自然も多く食堂もあって、広場で遊んで、ご飯を食べ、お散歩するにはぴったりの施設です。

「普段どのようなことを心がけていますか。」

（黒澤） ママの中には、お子さんと二人きりで利用する方もいるので、まずは声をかけるようにしています。また、お住まいの場所やお子さんの年齢を記載した名札を作っていますので、そこから交流が生まれるように、きっかけ作りとして「人と人をつなぐ」ことを心がけています。

（小林） 他愛のない会話が相談に乗りながら、「寄り添うこと」を心がけています。

（天田） ママの気持ちを考えることを心がけています。お迎えする立場にありますので、居心地の良い場になるようにしたいと思っています。

—どのような雰囲気場にしたいですか。

(小林)「来て良かった」と思ってもらえる場にしたいです。帰り際に、「思い切って悩みを打ち明けて良かった」、「心がホッとした」と言ってもらえた時、とても嬉しく感じます。

(天田)「また来たい」と思ってもらえる場にしたいです。

(黒澤) 長年保育士をしていた経験から一生懸命何かを教えたくなってしまうのだけれど、ママたちの中に「人と話したい、寄り添って欲しい」と望んでいる人が多いと気づいてからは、同じ思いを持つスタッフと一緒にそういう場づくりをしてきました。人の中で人を育てられるような、みんなが笑顔でいられる場にしたいです。

—ママたちから、初めてでも、次に来るまでに期間が空いても、皆さん(黒澤さん、小林さん、天田さん)が優しく迎えたり、覚えていたりしてくれるから、何度も遊びに来ると伺いました。

(小林) そんな言葉をいただけるなんて・・・すごく嬉しいです。(涙)

—ママたちとどんな話をするのですか。

(黒澤) お子さんの成長についてが多いです。今は色々な情報が溢れていて、ほかの子と自分の子の成長の差が気になるようです。

(小林) 自分のお子さんが同じ月齢の子に比べると成長がゆっくりに見えたり、小さかったりして、それをほかのママから少しでも言われると、心配になってしまふことがあるみたいです。

(黒澤) 子育ては、本や周りから言われること

だけが正解ではないから、「自分の子は自分の子、ほかの子と違って当たり前」という言葉で安心できると思います。

(小林)「うちの子もそうだった」と、経験を話すことも大事だと思います。

(天田) 一歩踏み込んだ部分のお話ができると関わり方も違うと思いますが、自分自身の経験も限られていますので、なるべく聞き役で自然に話せる雰囲気になっています。

(黒澤) 広場に来てももらえれば、お話だけではなく、ほかのお子さんを見て、自分の子どもの成長のイメージが持てたり、周りのママも成長を見てくれたりしますから、「みんなで子育て」ができる場なんです。

(小林)「みんなで子育て」ですね。ほとんどのことが協力し合えますから。

—子育てに奮闘するママ・パパに向けて。

(小林) 19か所の子育て支援拠点は、みな同じ思いで待っていますので、思い切って一歩を踏み出して、近くの子育て支援拠点に足を運んでみてください。笑顔で迎えてくれますよ。

(天田) 子育て支援拠点連絡会「くまっしえ」の合言葉である「ここがあるよ、ここにいるよ」という言葉を多くの方に伝えたいです。

(黒澤) 子育て相談はもちろんですが、料理教室やパパ向けのセミナーなど子育ての色々な情報もご案内できます。子育てに関わる全ての人が笑顔でいられる場所を目指していますので、ぜひ、いらしてください。



子育てと住宅

深谷市に本社を置く、古郡ホーム株式会社は、熊谷市に支店を出したことに伴い、地域に根ざすため、支店とは異なる場所に、近隣に暮らす人たちのための交流の場をつくった。名前は「くまのこみち」という。

「くまのこみち」は、カルチャースクールのほか、同社の展示場、ケーキ店、パン店及び出展スペースが軒を連ね、地域で暮らす女性を視野に入れながら、家を建てる意思の有無に関わらず、様々な人が集い交流できるように考えて作られている。もちろん住宅建築の希望があれば相談にも乗れるため、将来の生活を思い浮かべながら、余暇を過ごすための「場」となっている。こういった「場」の提供により、企業として地域づくりに取り組んでいる。

このような視点を持つ古郡ホーム株式会社には、女性従業員が多いという。同社は、「働きながら子育てをする人を応援する」という理念を持っており、実際に子育て世帯の従業員が働きやすいような職場環境づくりを行っている。このような考え方は同社が提供する住宅にも生かされることが多い。

そのため、古郡ホーム株式会社の子育て世帯に嬉しい家づくりのコツと、熊谷という地域と住宅について、同社に取材を行った。

取材に応じてくれたのは、古郡ホーム株式会社熊谷デザインオフィス店長の榎本 真一（まこと）さん、同アシスタントの高橋 陽子（たかはし ようこ）さんの2名。

古郡ホーム株式会社熊谷デザインオフィス
所在地：〒360-0018 熊谷市中央 1-192
電話 / FAX：048-594-7576 / 048-594-7510
営業時間：10時から17時まで
（定休日：水曜日・木曜日 祝日を除く）

くまのこみち（古郡ホーム株式会社熊谷店）
所在地：〒360-0015 熊谷市肥塚 711-2
電話 / FAX：048-501-8770
営業時間：10時から18時まで
（定休日：水曜日、木曜日）

くまのこみちオフィシャルブログ：<http://kumakomichiblog.fc2.com>
※「くまのこみち」内の各店舗の営業時間は上記と異なりますので
お問い合わせください。

写真：古郡ホーム株式会社熊谷デザインオフィス内



「子育て世代のスタッフとお客様のやりとりは。」
 (榎本) 同じ子育て世代ということで、勉強
 スペースや子どもたちの収納などの間取りのお話か
 ら、風邪の話まで、色々なやりとりをします。
 (高橋) 共通の経験
 があるから話しやすい
 のだと思います。盛り
 上がってしまいお家の
 話題から離れてしまっ
 こともあります。(笑)
 が、笑いの絶えない楽
 しい打ち合わせになり
 ます。



(※ 敬称は省略しています。)
 「住宅建築を計画中の方との関係性はどのよう」
 (榎本) 通常の買い物とは異なり、少なくと
 も半年は関係が続きますので、なるべく楽し
 みながら、いざという時にすぐに相談できるよ
 うな関係性を築けるよう努力しています。
 「相談を受ける上で大切にしていることは。」
 (榎本) 住宅の建築には、色々なスタッフ
 が関わりますので、スタッフ間でもコミュニケー
 ションを頻繁にとり、連携を図ることによっ
 てお客様を不安にさせることがないように心が
 けています。

「住んでからのやりとりは。」
 (榎本) アンケートなどを通して、住んでか
 らわかるお客様の声を大切にしています。
 「くまのこみち」の評判は。
 (榎本) 「ちょっと寄りたくなる」ようなお
 店やカルチャースクールを頻繁に開催するこ
 とにより、口コミで少しずつ認知度が上がって
 いるようです。「こういうところはなかったで
 嬉しい」や「利用者同士でお友達ができた」と
 いうお声をいただいていますので、うまく地域
 に馴染めてきていると思います。



「建てる上での相談で多いものは。」
 (榎本) 何かから手をつけたいのかとい
 つた相談が意外と多いです。そのため、どうい
 う家にするかではなく、進め方のアドバイスから
 始めています。
 「子育て世代の相談は多いですか。」
 (榎本) お子さんに合わせて住まいを検討す
 る方もいます。お子さんと一緒にご来店され
 た際には、託児スペースもありますので、安
 心して相談に集中していただけます。
 「子育て世代の注目する住宅のポイントは。」
 (榎本) 建てる家よりも建てる場所に注目す
 る方が多いです。学校からの距離や、病院や駅、
 スーパーまでの距離、日当たりなどを条件にし
 ている方が多いですね。
 「建てる際のお客様の悩みへの対応は。」
 (榎本) 今の悩みが将来的にどうなってい
 かをイメージできるように、具体的な例を示
 しながら、将来まで見据えた家づくりになる
 ようにアドバイスしています。
 「子育て世代にぴったりの住宅にするために
 気を付けていることは。」
 (榎本) リビングな
 ど、みんなで集まれ
 る場を大切にするよ
 うにしています。一
 人にならないよう
 な間取り作りをして
 なるべく家族で過ご
 せるような家づくり
 に努めています。



①熊谷デザインオフィス店長の榎本真一さん ②熊谷デザインオフィス内の小物は店舗の雰囲気花を
 添える ③アシスタントの高橋陽子さん ④絵本や積み木などのおもちゃが備え付けである熊谷デザ
 インオフィス内の託児スペース ⑤和やかに対応してくれる榎本さんと高橋さん ⑥住宅模型を手理
 想の家の説明に力が入る榎本さん ⑦くまのこみち内のカルチャースクールスペースには募集チラシも
 充実している ⑧くまのこみち内に 2015 年 10 月にオープンしたベーグル cafe KuMaNaKa ⑨くま
 のこみち内のケーキ店である PUBLIC SWEETS TART&PIE

「熊谷で建てる良さは。」
 (榎本) 生活に密着したお店の数が多いこ
 事です。都心に比べたら土地の価格も安いのでし
 始発駅や新幹線を利用することができますの
 で、通勤や通学にも便利です。
 「熊谷で建てるのに最適な家は。」
 (榎本) 日当たりも重要ですが風通しも重視
 したいですね。軒やバルコニーの工夫や、窓か
 ら風をとらえる工夫を柔軟に提案しています。



「小さいお子さんには、家具でも「角」が気
 になるかと思いますが、そういったことも考慮
 していますか。」
 (榎本) 家具のサイズや置く位置を考慮した
 上で、提案をしています。一緒に家具屋さんへ
 行くこともありますよ。

あると嬉しい熊谷の助成制度

ちよつと遠い通勤でも大丈夫 NEW

市内に住宅を新築又は購入した方に新幹線定期券購入熊谷から、らく賃通勤はいかがですか♪

代金の一部を助成します。(月上限2万円で最長2年間)

医療費無料は高校卒業までに拡大

お子さんが高等学校を卒業するまで、必要となる医療費急な風邪でも安心です。

(2017年1月から)

を助成します。(受給資格条件あり)

お家のことなら熊谷に

- ＊新たに住宅を購入した場合の固定資産税・都市計画税
- ＊スマートハウスなどエコな住宅の条件を満たせば、50
- ＊親世帯・子世帯が市内で同居または近居して3世代商品券で最大25万円分助成します。

を一定期間免除します。

万円の助成が受けられます。

以上の家族となり、住宅購入などする場合には費用の一部を

奨学金の返済も応援します NEW

大学などを卒業後、奨学金返済をする場合には、

利子額を補助します。(年間3万円を限度)

その他の条件やご相談は
熊谷市役所総合政策部企画課

電話：048-524-1111 (代表)

ファックス：048-525-9222